

第5号

2019.3

東京マガジンバンクカレッジ



鉄道セクション「中央線が好きだ。を書く」

東京都立多摩図書館

『東京マガジンバンクカレッジ』第5号の 刊行にあたって

『東京マガジンバンクカレッジ』第5号は、鉄道セクションの連続ワークショップ「中央線が好きだ。を書く」(平成31年1月12日から全3回)の参加者の皆様が作り上げた記事を一つにまとめ、都立図書館ホームページで公開するウェブマガジンです。

本ワークショップは、沿線情報誌『中央線が好きだ。マガジン』(編集：株式会社交通新聞社 発行：東日本旅客鉄道株式会社八王子支社)とタイアップし、同誌の編集長及びライターを講師にお招きして、講義や助言をいただきながら参加者が記事を仕上げていくという形で進めました。参加者は、テーマを決め、必要な取材やデータ収集を行い、誌面構成を考え、原稿を執筆し、記事を完成させました。それぞれの記事には、中央線を愛する熱い思いが溢れています。

ウェブマガジンの完成にあたり、講師をお務めくださった坂原茉莉子氏、松井一恵氏、佐藤さゆり氏に心より御礼申し上げます。

中央線が好きだ。を書く

- 住んでる町を楽しくしたい。
本×小金井プロジェクト————— 秋山かをり 7
- 中央線の原点
旧飯田町駅と旧万(萬)世橋駅付近を歩く ————— 井深 成仁 8
- 車窓から富士山を見よう！ ————— うえだ けいこ 9
- 赤い三角屋根の旧国立駅舎を再築中 ————— 上野 次郎 10
- 週末お出かけ
中央線からの便利な乗換えMAP ————— かとう ともみ 11
- 中央線快速電車が休日通過する街
高円寺・阿佐ヶ谷・西荻窪 ————— Dr.A.K. 12
- 水と鉄道の出会うところ ————— しいたに 13
- 立川で作品の舞台に立ってみる ————— へいあらん 14
-

イマドキの、お弁当屋さん	ほそぶち さちこ	15
途中下車しても食べたい♡♡買いたい♡♡		
中央線の動物スイーツ キャラスイーツ	水野 里美	16
中央線、車窓の風景	加澄 ひろし	17
JR 西国分寺駅		
～レールが繋ぐ時間 <small>とき</small> に思いを馳せて～	加澄 そら	18
プログラミングで多世代交流を実現！	武藤 郁	19
貴族と武士が歩いた三つの道	武藤 功	20
中央線ご当地発車メロディー♪		
『たき火』散歩	山室 智子	21
中央線を追いかける！	グランピー	22
講師紹介		4
ウェブマガジンができるまで		23

連続ワークショップ「中央線が好きだ。を書く」

講師紹介

さかはら まりこ
坂原 茉莉子氏

『中央線が好きだ。マガジン』編集長
2007年に（株）交通新聞社に入社後、
雑誌『JR時刻表』『散歩の達人』などの編集を歴任

●講師よりひとこと●

この度は、『中央線が好きだ。』マガジンとのコラボ企画「中央線が好きだ。を書く」を開催いただき、また、参加者の皆さまにおかれましては、素敵な記事を仕上げただきありがとうございます。皆さんが多彩で興味深いテーマを持ち寄って課題に取り組んでくださったので、講師陣もワクワクしながらワークショップを楽しむことができました。

また、参加者の皆さんからにじみ出る「中央線愛」を感じることができたのも、今回の企画の大きな報酬でした。『中央線が好きだ。』の読者がなにを考え、なにに興味を持たれているかを肌で感じることでできて大変貴重な経験でした。

もともと『中央線が好きだ。』マガジンは、中央線沿線の街と住民をつなげたいという思いのもとに発行されています。今回、ワークショップを通じて、沿線（とその周辺）の方々となつなげることができたことをうれしく思います。参加者の皆さまがワークショップで制作しました渾身の記事、ぜひぜひお読みください！

まつい かずえ
松井 一恵氏

フリーライター、編集者
日々街中を歩き、料理や食材・店舗・地域・生活情報など、
幅広い分野の記事を取材執筆

● 講師よりひとこと ●

『中央線が好きだ。』にライターとして関わらせていただき、早いもので4年目になります。今回、講座を通じて読者の皆さまとお話する機会に恵まれ、とても大きな刺激をいただきました。

どんなメディアも、「企画（テーマ）」決定が最初の一步。本誌もまず企画が決まり、企画に沿って取材対象となる「情報（ネタ）」を出し合います。これを「ネタ出し」と呼び、私は誌面づくりの要になると思っていますのですが、今回参加された皆さまの「ネタ」にびっくり！ オリジナリティにあふれ、知らないことがざっくざく！ こちらもさらに奮闘せねばと、背筋が伸びる思いがしたのです。

講座はゴールしましたが、『中央線が好きだ。』のご縁を大切に、これからもどうぞよろしく願いいたします。

さとう 佐藤 さゆり氏

フリーライター
ローカル雑誌の編集・制作業務に従事後、独立
『散歩の達人』『珈琲時間』などで記事を執筆

●講師よりひとこと●

講師という柄でもなく、皆様のお役に立てるのかと、不安とドキドキが入り混じっておりましたが、初回、皆様にお会いし、テーマをお聞きして、ああ仲間がこんなにいる！と感じたことを思い出します。中央線沿線に暮らし、街を愛してやまない仲間たち。しかも、それぞれの視点をきちんともち、初回から闊達にグループで意見交換する様子にも驚かされました。

私が担当した「原稿の書き方」は、文章量の設定を自由としたために、正直、基礎の基礎しか、お伝えできなかったと思います。それでも、読ませていただいた記事からは、熱意をビシバシと感じました。記事のキモである「伝える」ことが、個性豊かに形になっています。

書くことは、いろいろな人の文章を読み、好きな言葉、言い回しを会得しながら、書いて書いて、書いていくことで、自分の文章ができあがるようになると思います。皆様の楽しい記事にまた出会えるのを、心待ちにしております。

住んでる町を楽しくしたい。

本×小金井プロジェクト

本好きな二人が2016年に立ち上げた「本×小金井プロジェクト」は、「歩いて行ける距離に本を使ったイベントがあれば、自分たちの町がより楽しくなるのでは？」という思いから始まった。

四つのかたち

シエアする小屋(三丁(チル))で古本と少しの新作を売る『路地ブックス』が、活動の一番の柱。毎週土曜日の16時から20時までの営業だ。他に、飲食店など本のない場所に本を置き、本が読める場所をつくる『よしみち文庫』、読書会『ほんのはなし』、フリーペーパー『よふかし文庫』と、その活動は多岐に渡っている。

自然な巻き込み力

二人は、ひらめきを形にする福永さんとデザインを手がける柏崎さん。お互いに、やりたいことも得意な領域も重ならないという絶妙なバランスで成り立っているのが素晴らしい。また、活動していく中で出会った現役の書店員や地域で読み聞かせをしている人など、本に興味のある人と一緒にイベントを進めていくことも。「できる時に、できる人がやる」姿勢なのだと言ふ。自然な巻き込み力もこのプロジェクトの魅力だろう。

よふかし文庫は読みかえたつぷり。全国の各み屋さんにファンがいる。



本を置けいどどこからか人がよしみち文庫



本を紹介広がる会話。ほんのはなし

かちいらしいうれんをくぐると『路地ブックス』の世界が広がる。

ノリのいい飲食店と

「小金井の特徴は？」の問いに「お店とお客さんの距離が近くて、いい人が多いこと」と言う二人。以前、質屋坂で行なった古本市では「漫画や絵本に登場するメニューを再現したい」という柏崎さんの熱い思いに応えた飲食店が数店舗あった。お店としても、さぞ挑戦しがいのある面白い提案だと思っただろう。試作を重ねて出来上がったマンガ肉やパンは、味はもちろん、出来栄への忠実さにお客さんから大好評だったそう。(これがきっかけで、お店の定番メニューに加わったところもあるのだとか。)この古本市、主催者としても充分な手応えを感じたそうで「また開催したいと思っています」とのこと。気になる人は、これから情報に注目。

路地ブックスで話そう

「へえ面白そう」と思ったら、まずは気軽に路地ブックスへ足を運んでみては。二人の他に、実店舗を持たずに様々な場所で本を提案するSINCE(すみか)の中西さんもメンバーに加わる。月ごとに変わるテーマに沿って選んだ本とともに、本のことを話したくてたまらない気さくなメンバーが笑顔で迎えてくれるだろう。

☆本×小金井プロジェクト

最新情報はこちらへ
http://twitter.com/honkoganei

☆路地ブックス

小金井市本町1-20-2
(JR武蔵小金井駅南口より徒歩約3分。南口を出て左、モスバーガーのある通りをまっすぐ進む。左手に保育園など見ながら進むと突き当たり、駐車場の左脇に飲食店が並ぶ細い道が続く。その中の一番奥のお店)
営業時間・毎週土曜16:20時



構成・文/秋山かをり
撮影/本×小金井プロジェクト

中央線の原点

旧飯田町駅と旧万(萬)世橋駅付近を歩く

構成・文／井深 成仁

飯田町駅は、1895年(明治28年)に甲武鉄道(現、中央線)の起点駅として小石川橋通に面して(現、大和ハウス東京ビル)開設、電化後は電車運転の始発駅にもなりましたが、飯田橋駅開業後の1933年(昭和8年)に旅客扱いが、1999年(平成11年)には貨物扱いも廃止されました。

飯田橋駅東口から水道橋駅方向に線路南沿いを歩いて約5分で旧飯田町駅付近です。

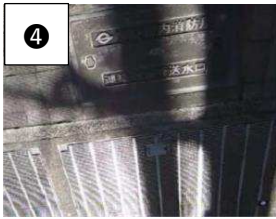
飯田橋駅が起点となった理由⁽¹⁾、飯田町駅入場券写真⁽²⁾、当時の貨物と電車の走行写真⁽³⁾と、現在の飯田橋、飯田町付近(写真①-③)は隔世の感です。



①は飯田橋駅ホームからの旧飯田町駅方向(柵右線路は飯田町駅跡に繋がる)、飯田橋駅移設(西側200m)後はホームからは見られなくなるでしょう。②③は旧飯田町駅構内。

国有化後の1912年(明治45年)開設の万世橋駅は、関東大震災の猛火で駅舎焼失、建替後の駅舎は貧弱、新たに開通した総武線が通らない等で縮小され、東京駅への延伸や駅前に市電が通らない等で乗降客数は減少を続け、1943年(昭和18年)に休止(実質上廃止)扱いとなりました。

秋葉原駅西側の電気街を経て旧国鉄万世橋駅跡(写真⑤-⑦)に至る途中には現東京地下鉄の旧萬世橋駅があります(写真④)。



④は地下鉄旧萬世橋駅跡への点検用の蓋(東京地下鉄のマークあり)、旧国鉄万世橋駅跡地に建てられた⑤はビルディング、⑥、⑦は橋脚下と橋脚上のレストラン街。

参考文献(1)-(3)と参考情報

(1) 飯田町駅が起点の理由:『中央線誕生』中村建治著/交通新聞社

(2) 飯田町駅入場券写真:『中央線 街と駅の120年』三好好三著/JTB

(3) 甲武鉄道当時の貨物と電車の写真:JR東日本八王子支社ホームページ

<https://www.jreast.co.jp/hachioji/chuouzen/history.chu/photo/07.html>

(参考情報) 中央線他の廃止駅:牛込駅と昌平橋駅(上記(1)に当時の路線地図)



2 茅ヶ崎〜新幹

まっすぐな中央線?

車窓から

富士山を見よう!



スマホから目を上げ、景色を見よう

学生時代、「中央線は中野から立川まで、ほぼまっすぐなんだよ」と、加速だ重力だの物理授業の余談で聞いたのだが、頭に残ったのは物理の法則では無く「中央線はまっすぐ」という所だった。そのまっすぐな線路ゆえ、上り線は進行方向右窓側、下りでは左窓側で美しい富士山を望む事が出来る。今や世界遺産となり、海を越えてアイコン、パワースポットとなった富士山。中央本線を下り、山梨県側の富士山に近づくと当然ながら絶景が拝めるのだが、東京都内を走る中央線から自然と見る事が出来る場所がかなり有る。手元のスマホ等では無く、遠くの、その清々しく雄々しい姿を見て、パワーをもらい、目・心に栄養補給はいかがでしょう。ビルの谷間に色々な山の頂のポイントを見ながらあなた自身のベストポジションを見つけてみてください。くれぐれも、下車する事を忘れぬようご注意ください!



上! ふじさんクッキーは、ほうじ茶風味で1枚150円。この富士山の形は作り手の方(CAFE FLA っと代表・浅野さんの奥様)のオリジナルの人気商品で、そのかわいらしさから、残念ながらお品切れする事も。

CAFE FLA っと [西国分寺駅]

豊富なカフェ飯、スイーツがいただける雑貨の取り扱いも有るカフェ、ソファ一席も有り、天井が高く解放感と落ち着いた雰囲気であっという間とき過ぎましたらお土産に焼き菓子はいかがでしょう。

DATA JR 中央線西国分寺駅・武蔵野線南口から5分。国分寺市泉町2-9-1 西国分寺ライフタワー1F 11:30~21:30LO (ランチ~15:00)
構成: 文/うえだ けいこ

おすすめ VIEW ポイント(下り線ベース)

- ①吉祥寺駅を出発して 左手 井の頭公園の緑広がる先
- ②武蔵境駅を出発して 左手 自動車教習所付近
- ③日野駅手前・多摩川・多摩川橋梁・右手

※上記は、下り線のご案内で、上り線の場合は全て逆方向(左手は右手になります)になります。こちらは私のお勧めです。より良いポジションがたくさんありますのでご自身で探してお楽しみ下さい。

赤い三角屋根の旧国立駅舎を再築中

駅は「街」の顔で「待ち合わせ場所」



再築現場



内部(玄関ステンドグラス)



完成イメージ(国立市提供)

1926年(大正15年)に箱根土地(現プリンスホテル<西武グループ>)が駅舎を建設し、鉄道省(現JRグループ)に請願駅として寄付したものが旧国立駅舎です。その翌年1927年(昭和2年)に東京商科大学(現一橋大学)が国立に移転したことがきっかけで、国立は学園都市となりました。その後、旧駅舎は「赤い三角屋根」として市民、学生、中央線利用者に長年親しまれ、大学通りや兼松講堂とともに国立市のシンボルでした。しかし、中央線の高架化工事に伴い、旧駅舎は2006年(平成18年)に解体され、その部材は市内に保管されました。

市民、商工会、如水会(一橋大学同窓会)は旧駅舎の復元案について熱く議論しました。これを受けて、国立市は旧駅舎を有形文化財に指定し、国の社会資本整備総合交付金と「くにたち未来寄附金」(ふるさと納税も含め)を資金とし、現在の場所に再築することになりました。旧駅舎の再築工事は2018年6月に開始され、2020年2月に完了予定です。歴史・観光情報を発信し、憩い空間を提供する多目的施設として駅は復活します。今後の駅周辺整備でも市民、市役所、企業の連携が進むことを期待します。

(文・撮影 上野次郎)

<再築前の国立駅(保坂一房氏提供)>



解体直前



解体直後

中央線30年ユーザーのおススメ!

週末お出かけ

中央線からの便利な乗換えMAP

通勤・通学だけではもったいない!
東京の真ん中を走る中央線は週末のお出かけにも便利です。ちょっとした休みを使って中央線の旅をしてみませんか?



中央線快速電車が休日通過する街

高円寺・阿佐ヶ谷・西荻窪

うさぎや 創業昭和25年

うさぎやといえば、どら焼きとうさぎ万頭が有名ですが、季節感溢れる花や鳥を表した彩り豊かな生菓子も。「和菓子は伝承工芸。四季の移ろいと共に変化するんです。」と語るのは店主の瀬山妙子さん。戦後の混乱期に薪で餡子を焚いたのが、うさぎやの始まりとのこと。今でもなるべく箱は使わず、バラ売りもしているのので、「どら焼き一つ！」と言って買っていくお客さまもたくさんいる。



阿佐谷は「昔は北口は寂れていたけれど、中央線の高架化で賑やかになった。街も変わったけれど、それでも昔ながらの街並みが残っていて、落ち着く街」と瀬山さん。

鳴き声が聞こえてきそうな生菓子の「鶯」(写真右)260円。

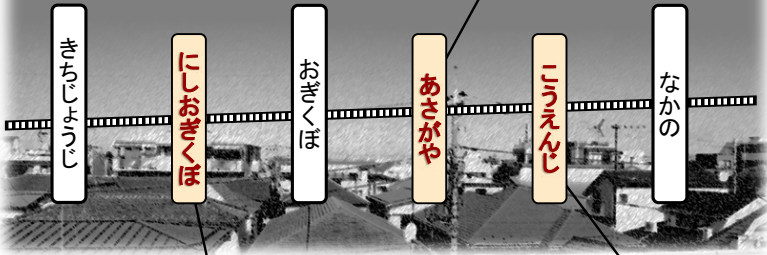
左上から時計回りに「早春」「寒牡丹」「椿」「水仙」。『早春』の赤紫部分は梅の味、「椿」の中は真身餡。いずれも260円。



JR中央線阿佐ヶ谷駅北口から徒歩2分
営業時間: 9:00~19:00 土曜・第3金曜休

中央線の歴史と共に地域の文化と人々を育んだ老舗たち。

目まぐるしく変わる中央線からの眺め。無機質なビル群の間に見え隠れする、昔ながらの温かく懐かしい街並み。



文・構成 Dr.A.K.

こけし屋 創業昭和24年

創業者の大石総一郎さんは、昭和24年、結核姿の学生の頃に「珈琲屋」を始めた。その後、「珈琲だけじゃ苦い、甘いものも!」「ケーキだけじゃお腹いっぱいにならない!」という声に応え、昭和26年にケーキ、昭和28年にフランス料理を始めた。



不動の人気商品「ショートケーキ」305円、「サバラン」220円。気品漂うシンプルなお観。

「ケーキには思い出もあるでしょ。」と語るのは、店長の川上貢さん。人気のショートケーキは、創業時からレシピを守り続けているという。



「シレイユ」220円。こけし屋ファンの間で人気。

西荻窪には、昔から著名な作家や画家が多く住んでいたことから、こけし屋では「カルヴァドスの会」という文化人達の集いが、昭和24年から30年以上に亘り、開催された。

JR中央線西荻窪駅南口から徒歩1分
営業時間: 9:00~22:00 (洋菓子) 11:00~22:00 (レストラン) 火曜休

毎月「第二日曜」開催のグルメの朝市では、焼き立てパンに長蛇の列!

トリアノン 創業昭和35年

若いパティシエが活躍する高円寺の老舗、トリアノン。2000年以降、毎年「ジャパンケーキショー」に参加し、様々な賞を受賞し続けている。お話を伺った大澤彩恵子さんも受賞者の一人。

伝統を守りつつ、時代の求める菓子作りを探求するトリアノンのパティシエとして、話題の新しいお店のケーキも研究するそうです。

高円寺について「文化を作ろうとする若者が集まる街。街を愛する勢いがありながら、地に足ついた素朴感がある」とは、三代目社長の安西健太郎さんのお言葉。



左上から時計回りに「チーズケーキ」380円、「モンブラン」380円、「サバラン」390円、「モカロール」350円。いずれも、先代からある根強い人気商品。



最新作「いちごバûche」450円。いちごの季節限定なので、早ければ3月に販売終了することも?



今でも一番人気の「デラックスショートケーキ」485円

JR中央線高円寺駅南口から徒歩1分
営業時間: 10:00~21:00 年中無休 10:00~20:30 (喫茶室: L.O. 20:00)

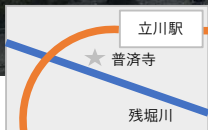
春の散策におすすめしたい3スポット

水と鉄道の出会うところ



水辺は生き物を育み、人々の暮らしを支え、さまざま文化の土壌になってきました。水と鉄道の道が出会う界限。そこはきつといろいろな物語が潜んでいるはず。この春、ふらり足を運んでみませんか。

静寂・文化しつたに



残堀川（立川駅付近）

普済寺
東京都立川市柴崎町
4-20-46



野川（国分寺駅付近）



国立中央研究所
東京都国分寺市
東恋ヶ窪1-280

残堀川と普済寺（ふさいじ）中野から真つすぐに西に向かった中央線は、立川駅を過ぎると左に折れ、しばらくすると残堀川に架かる鉄橋をわたります。ほとりにあるのが古刹普済寺。境内には国宝の石幢（せきどう）があり、多摩の文化の古層をしのばせてくれます。野川と日立中央研究所ほとりを歩めば、誰もが春の歌を口ずさみたくなるでしょう。源流は、日立中央研究所。構内の敷力所から



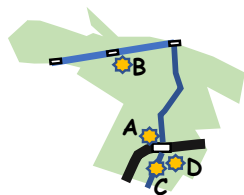
三鷹駅
東京都三鷹市下連雀3



湧いた水がひとつになり、中央線をまたいで住宅街に注ぎ込みます。しばらく蛇行したのち、小さな橋をくぐるとそこは春の小川です。玉川上水と三鷹駅東京の西部を代表する流れが玉川上水です。取水の羽村から新宿まで延長は四十三キロにも及びます。中央線がまたぐのは、なんと三鷹駅の真下。どうして流れの上に駅を設けたのでしょうか。今回の取材では解くことができなかった謎です。

近代的な建築とモノレールの街立川。昭和五十年代までは米軍基地があった。北部の砂川地区は、江戸時代の新田開発の頃から農家が残る。立川を描いた作品の舞台に立つと、立川のいろいろな顔が見えてくる。

(文・写真 へいぼらん)



TACHIKWA MAP

左/けやき並木
右/五日市街道を望む



「五日市街道の朝焼け」

五日市街道沿いは、砂川新田が開発された江戸時代からの農家とケヤキ並木が印象的な場所。この作品は、「一九九九年、立川駅北口の風景」の続編で、友人のバイト先からアパートへ二人で帰る場面が描かれている。「それにしても、不安になるほど茫洋と野原が広がっているが、本当にここが東京の中心なのだろうか。」昔からの懐かしい風景のこのあたり。歩いていれば、又吉が見た風景が見える気がする。

場所 砂川三番 (MAPのB)
作品 「五日市街道の朝焼け」 東京百景/又吉直樹

左/駅前 monumento
右/ビル間のモノレール



「一九九九年、立川駅北口の風景」

立川駅北口を出ると、モノレールと遊歩道が立体的に交差する近未来都市のような眺めが広がる。この作品は、又吉直樹の東京を舞台にしたエッセイ集「東京百景」の一篇。「東京の真ん中に住んでいる」という友人を訪ねて初めて上京した又吉が見たものは、なんの変哲もない駅前の光景。現在の姿になる前の立川駅前には、初めての東京に胸を躍らせる若者には、少々寂しい景色だったかもしれない。

場所 立川駅北口 (MAPのA)
作品 「一九九九年、立川駅北口の風景」 東京百景/又吉直樹

左/錦中央通りの象徴的な看板
右/錦中央の町並み



「ワルボロ」

錦町は、立川駅と西国立駅の間に広がる町。錦中央通りには、古くから営業している商店や町工場が並ぶ。ゲッツ板谷の自伝的小説「ワルボロ」の舞台は、80年代の立川。ケンカ三昧の熱い青春を過ごす主人公は、錦小出身の錦組のメンバー。錦町から中央線沿いは、「しよばい町」と悪態をつきつつ、町への愛が隠し切れない主人公が、ケンカしたり、デートしたりした場所だ。

場所 錦町大通り (MAPのD)
作品 「ワルボロ」/ゲッツ板谷

交差点風景



「ゼロの焦点」

立川駅南口から延びるモノレールが、奥多摩街道と交差するあたりに、かつては立川警察署があった。昭和30年代に発表された松本清張の代表作「ゼロの焦点」では、事件のキーとなる場所が立川。主人公の禎子が夫を探して立川警察署へ歩く場面では、「すぐ頭の上を、びっくりするような音を弾かせて大きな軍用機が上昇した。」と、米軍基地があった当時の光景が描かれている。

場所 奥多摩街道とモノレール通り交差点 (MAPのC)
作品 「ゼロの焦点」/松本清張



イマドキの、 お弁当屋さん

お弁当屋さんには数あれど、内装もフードもマリントイストの弁当店が中央線にあるのは珍しいのではないだろうか。そんな一風変わったお弁当屋さん『MALIBU FARM BENTO』が国分寺にある。

取材・文＝ほそぶちまちこ



オープンには2018年の5月。DIYで内装をイチから作り込んだため、開店するまでに2年近くかかったという。



店名に入っている『マリブ』はカリフォルニアのサーフポイント。サーフィンが趣味だという店主の高杉秀樹さんは「形のいい波が来るので大好きで、店名につけたくて」と話す。

火曜から土曜は実家のある国分寺で店を開け、週末は千葉の自宅へ帰る二拠点生活を送っている。

メニューはハワイアンガリックシュリンプやサバの黒酢照り焼き、バターチキンカレーなど、普通のお弁当屋さんとは一味違うラインナップだ。

人気ナンバーワンは特製タルタルチキン南蛮。年配のお客さんはサバを選ぶ人が多いと教えてくれた。もともと菓予職人だった経験を生かして、自家製のガトーショコラやほうれん草のパウンドケーキも並ぶ。

「ガリックシュリンプは、ハワイにあったあるお店から作り方を教わったもの。僕は殻ごと食べちゃう」という高杉さん。現在デリバリー対応もできるよう準備中。イマドキのお弁当、ぜひ一度味わってみて。

↓ MALIBU FARM BENTO ↓
〔 国分寺駅 〕

DATA JR 中央線国分寺駅北口から徒歩約 12 分。
11 時～20 時、日・月・祝休。国分寺市本多 4-2-18



1. ハワイアンガリックシュリンプ 1000 円。にんにくの風味とエビの香ばしさがマッチしてご飯によく合う（イートインの場合はワンプレートで提供）。2. かわいい見た目と女性に人気の SPAM おむすびは 1 個 200 円。スパムの下には玉子焼きと細切りのたくあんが隠れていて、食感も楽しい一品。



3. 娘さんが海岸で集めた貝殻で作ったリース。親子そろって生粋の海好き。4. メニューは「ヘルシーにお肉も野菜も食べたい！」がコンセプト。5. 店主の高杉さん。パーカーやトートバッグなどのオリジナルグッズも販売している。

途中下車しても食べたい♥♥買いたい♥♥



中央線の

動物スイーツ



キャラスイーツ

カップルでのカフェ巡りをより楽しみたい！
友人宅でのホームパーティーが盛り上がる手土産が欲しい！
素敵なおやつで子どもの満面の笑みを見たい！
そんな想いを実現する動物スイーツ。
キャラスイーツを求めて途中下車はいかが？

構成・取材・文・撮影＝水野里美

店の雰囲気も楽しむ

イトイン派

テイクアウト派

手土産に

抹茶白玉ぱんだパフェ

ぱんだ珈琲店

〔阿佐ヶ谷駅〕

大きなパンダの看板が目印の店内には可愛いパンダの雑貨があちこち。「パンダが好きでこの店を始めた」という金澤敏彦さん・弓恵さん夫妻が集めた雑貨だ。

パフェはラテアートが可愛いパンダ・オレとセットで楽しみたい。

パフェに乗っているパンダはマジパンで手作りしたもの。

弓恵さんが描いたパンダの、ぱんだ珈琲店オリジナルグッズもお土産にオススメだ。

お子様大喜び



動物

ブレックッキー・くろくまチョコ

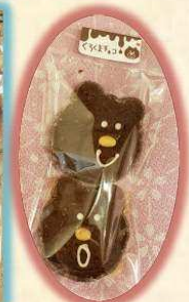
パンと料理とお菓子の店 tonttu

〔阿佐ヶ谷駅〕

お菓子もパンも料理(カフェ)も楽しめることをコンセプトにご夫婦でオープンした。「日々試行錯誤し、味を高めている」という。

(左)「僕、猫がいい」「わたしはキリンさん！」はしゃぐ子どもたちの声が店内に響く。「親子連れなどに人気」だという動物の形をしたブレックッキー。あなただけの動物が大好き？

(右)手作りだからこそ一つ一つ表情が違う「くろくまチョコ」。渡す方の好きな表情を選んでプレゼントに！



キャラ



インスタにアップしたい

ベビーショーンのイースターショート

ひつじのショーンカフェ with Sunday Brunch

〔吉祥寺駅〕

季節ごとに新しいショーンのケーキがお目見え。今春はイースターエッグのクッキーがポイントで春らしい彩りのケーキ。一つ一つ手作りのショーンのクッキーもトッピング。ケーキだけでなく店内の雑貨や雰囲気も写真を撮りながら楽しみたい。

ストライプの服を着たショーンは吉祥寺店限定のデザイン。店内で限定デザインのぬいぐるみやイラストを見つけてみよう！吉祥寺店とオンラインショップでしか買えない雑貨も見逃せない！

トトロのシュークリーム・猫バスサンド

白髭のシュークリーム工房

〔吉祥寺駅〕

(左)葉っぱや帽子が可愛らしいトトロのシュークリーム。発売から12年目を迎える、大人気のオリジナル商品だ。季節限定の味もあるため、オールシーズン足を運びたい。

(右)2018年11月にオープンした吉祥寺店限定の新商品「猫バスサンド」。しっとりしたクッキーと奥深い味のバタークリームのレーズンバターサンドだ。ネコバスの窓からは小さなトロがひょっこり！！パッケージも可愛らしくてプレゼントに最適だ。

中央線、車窓の風景

構成・文
フォト・イラスト 加澄ひろし



幼い日、僕は両親と共に中央線に乗り、窓際に座って外を眺めていた。右から左へまた左から右へと通り過ぎる景色を一心不乱に見つめていた。その後、学校や会社に通う日々、僕は数十年間、中央線に乗り続けた。通勤電車で揺られて、時には何かに悩みながら、時には思いにふけりながら、僕は窓の外の景色を見ていた。今も思いをさせるのは、記憶に残る昔懐かしい車窓の風景だ。

鉄塔の森

上り電車が東小金井駅を出発すると、左側の車窓に、変電所が見える。子どもの頃の僕は、目の前に林立する鉄塔の中を走り抜けるように感じていた。数限りなく立ち並ぶ鉄塔の中で、機械の森に迷い込んだような不思議な感覚を覚えていた。高架化されて線路と変電所との距離が離れたことで、景色の印象も変わってしまったけれど、僕の脳裏に刷り込まれた「鉄塔の森」の残像は、今も消えることはない。



周囲の景色も変わり、構内の設備も変わりましたが、鉄塔が重なり合って立ち並ぶ様子は、昔の姿を留めています。
(武蔵境交流変電所)

外堀に遊ぶ水鳥たち



訪れる渡り鳥の数も種類も、めっきり減ってしまいました。もうオシドリの姿を見ることはなさそうです。
(雄のマガモ、市ヶ谷駅付近)

上りの電車が四ツ谷駅を出ると、市ヶ谷から飯田橋にかけて、左側の車窓に、外堀の水の景色が広がる。かつては冬になると、たくさんの渡り鳥がやってきて、ところ狭しと水面を埋め尽くしていたものだ。数多くの種類の鳥が泳いでいたけれど、いつも僕らは、鮮やかに目立つオシドリの姿を追い求めていた。春が来て、周りの土手に桜が咲く頃になると、オシドリは渡って行ってしまふ。でも幼い僕は我知らず、いるはずのない季節になっても、水面にオシドリの姿を探し求めていた。

富士山遠望



晴れた日には、丹沢の山々の向こうに雄大な富士山が見えます。絵葉書のような景色ですが、絶景ポイントは、少しずつ減っています。
(武蔵境～東小金井間)

天気の良い日には、日の当たる南側の景色を眺めるのが楽しみだった。上り電車の右側を遠く見渡すと、山並みの向こうに富士山が見えた。季節によって姿を変える富士山の雄大な景色を追い求める気持ちは、おとなになっても変わらない。南側の窓に向かって立つ時は、いつでも、視線が富士山の方に向く。沿線を高い建物が埋め尽くすようになってきて、富士山は、次第に見えにくくなってきた。それでも僕は、いつでも、建物の間に垣間見える富士山を目線の先に追っている。

新宿副都心の高層ビル

上り電車が新宿に近づくと、進行方向の車窓に、副都心の高層ビルが近づいてくる。最初は「京王プラザホテル」、そして「住友三角ビル」、その後、数本の高層ビルがそびえて建った。遠くに見える高層ビル群の印象は、空に伸びる未来都市のようだった。時の流れとともに、遠望する西新宿の様相も大きく変わった。高層ビルが珍しい存在ではなくなった今でも、かつての景色を懐かしむように、僕の視線は新宿副都心のビル群を追いかけている。



かつては、ひとつひとつの形を見て、ビルの名前を思い浮かべていたものです。最近では、新宿以外の高層ビルも見えるようになりました。
(東中野～大久保間)

沿線の開発が進み、駅が改装され、線路が高架になって、中央線の車窓の景色も少しずつ変わっていく。僕は今日も、中央線に揺られながら、窓の外に目をやって、流れる景色を眺めている。知らず知らず頭の中には、遠い記憶がよみがえる。周りに居合わせる乗客の姿は、時と共にすっかり入れ替わってしまったけれど、車窓を流れる景色が、昔の名残を消し去ることはない。

車内で過ごす時間は単調ですが、窓の外を過ぎる景色は目まぐるしく変化しています。時にはスマホから顔を上げて、流れる風景に目を向けてみてはいかがでしょうか？
いつの日か、心に映る景色の記憶を、懐かしく想う日がくるかもしれません。

東京都立多摩図書館最寄り駅の西国分寺駅は1973年4月1日に武蔵野線開通と同時に開設されました。今から45年以上前に遡りますが、中央線東京～高尾間で最も新しい駅です。

JR西国分寺駅

レールが繋ぐ時間
思いを馳せて



1



4



2



5



3



6

写真1～3は、西国分寺駅構内の2018年9月にリニューアルされた商業施設内に展示（時期によって入れ替え有り）されている一部を「中央線が好きだ。を書く」ワークショップの為に国分寺市より借用させていただいたもの。駅構内の店舗での写真展示について、JR中央ラインモール遠藤洋平さんは「西国分寺駅は通勤・通学での利用が多いですね。商業施設リニューアルの際に何か西国分寺らしさを出せないか、駅周辺のことでも伝えられたらと地元の歴史的事を探していたら国分寺市ふるさと文化財課の存在を知り、ご協力いただきました」とお話をいただきました。また、同店舗では実際に使われていた鉄道のレールが別のものに姿を変えて利用されています。「駅構内にあるお店なので鉄道の要素を取り入れました」と遠藤さん。乗客を目的地へと繋ぐレールはその役目を終えてもなお、人々を過去から未来へと繋いで続けています。

写真1～3 / 武蔵国分寺跡資料館

写真4～6 / 加澄ひろし

構成・文・写真7 / 加澄ひろし

東京都立多摩図書館が位置する駅の南東方面には、かつて旧国鉄の教育機関であった中央鉄道学園がありました。図書館に隣接する東京都立武蔵国分寺公園の一角にたずむ車輪の記念碑は、蒸気機関車の車輪をモチーフに国分寺市によって設置されたものです。国分寺市が鉄道との関係が深い町であることが記されています。



7

プログラミングで多世代交流を実現！

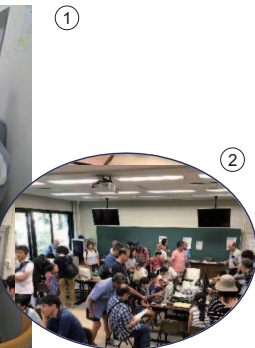
「シニアはITに弱い」そんなイメージを一変させるのが、武蔵小金井駅南口にある「NPO法人らくビット」。毎週3～4回のペースで、プログラミング学習を中心に電子工作やロボット工作など様々な活動を行っています。（取材・文 武藤 郁）

パソコン好きのシニアが増えてます

武蔵小金井駅南口から徒歩5分ほどのマンションにあるNPO法人「らくビット」のサロンには、毎週数十～十数名のシニアを中心に、人達が集まって来ています。シニアと聞くと囲碁や将棋のサークルと思う方もしれませんが、そうではありません。「らくビット」はプログラミングを中心としたコンピュータを楽しむ為のサークルです。実はプログラミングは脳トレにも最適！「らくビット」では先生・生徒という枠組みも無く、仲間同士で互いに助け合いながら楽しくコンピュータに向かっていきます。

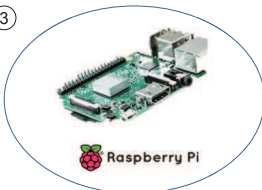
使っているのはラズパイ

「らくビット」で使っている「ラズパイ」は「Raspberry Pi」、通称「ラズパイ」。名刺サイズの小型パソコンで、価格は5000円ほど。ネットやメール、文書作成など、通常のPCと変わらない機能を持っています。しかもPCやタブレット、スマホでは出来ない電子工作やロボットの製作も可能という実はかなりの優れ物。「ラズパイ」を使ったサークルは全国的にも珍しく、京都や山梨からも入会者があるほどです。



①

②



③

- ①シニアだけではなく、30代からの男性、女性も活動しています
- ②「青少年のための科学の祭典 東京大会」の様子。子供たちもプログラミングに興味津々
- ③昨年発売になった新型の「Raspberry Pi 3B+」



子供も一緒にプログラミング

「らくビット」の活動はシニア内に限らず、次世代へ繋ぐ事も視野に入れています。具体的には2020年度より導入される予定の「小学生からのプログラミング学習」で、コンピュータを使った学習で、ひとりの教師が30名の生徒の面倒を見るのは至難の業。多数のサポート役が必要となると考えられております。「らくビット」は、この分野での地域支援を目指しています。また、昨年からオリジナルの「子供のためのプログラミング教室」を週に2回開催。今では「らくビット」は、小学生やそのご両親、そしてシニアと多世代が交流できる場になっています。

小金井市市原町3-40-1
 小金井スカイコーポラス314-B
 コミュニティサロンはけ内
 連絡先(メール) : ask@racoubit.org
 ホームページ :
<http://www.racoubit.org/>



貴族と武士が歩いた三つの道

西国分寺駅周辺には歴史的な名所がたくさんあります。ここでは奈良時代より古い飛鳥時代に造られた東山道武蔵路と、鎌倉時代から現在まで伝わる鎌倉街道を紹介します。
(文・撮影||武藤功)



JR西国分寺駅南口

西国分寺駅の改札は一つ。左へ行くと南口。東山道へ行くには都立多摩図書館を目指すとうわかりやすい。



東山道武蔵路

西暦675年頃に造られた都から全国各地へ伸びる五畿七道のうちの一官道。武蔵路は上野国から武蔵国の国府までの往還。写真は側溝。1.2m右にもう片方の側溝がある。左に見えるのが都立多摩図書館。



伝・鎌倉街道

武士の時代から戦後まで使われた神奈川県鎌倉から長野県善明寺まで鎌倉街道上ノ道。俗に言う切通し状で道幅も狭い。右の写真は中央線の北側。



金堂講堂間通路

奈良時代の741年に聖武天皇の勅で全国60数カ国に造られた国分寺。武蔵国分寺は全国最大規模を誇った。近年、七堂伽藍のうち金堂と講堂の間に通路が発見された。

中央線 ご当地発車メロディー♪

『たき火』散歩

豊田駅のご当地発車メロディーとして、巽聖歌（たつみせいか）が作詩した童謡『たき火』は、2010年より使用されています。巽聖歌は晩年の25年を、豊田駅近くの日野市旭が丘で暮らしました。しかし、『たき火』が発表されたのは、1941年（昭和16年）。その頃、巽聖歌は、中野区上高田に住んでいました。つまり、「垣根の 垣根の 曲がり角〜♪」の童謡『たき火』の風景は、中野区にあります。JR中央線中野駅を起点に、『たき火』散歩してきました。約4時間、15,000歩ほどのお散歩です。 構成・文=山室智子

都営大江戸線

新江古田駅

GOAL !

⑤ バスで山崎記念中野区立歴史民俗資料館へ。館蔵品展ではクイズラリーに挑戦。クイズに答えながら、展示の説明をじっくり読みました。常設展では、縄文時代から現代までの中野区の変遷を展示。私は「中野の象」に興味を持ちました。

享保13年に長崎に渡来した象は、天皇上覧の際、官位が与えられたという逸話（後世の作り話らしい）があります。象は東海道を下り、將軍吉宗の上覧後、ここ、中野村に預けられたそうです。



写真提供:中野区立歴史民俗資料館

山崎記念
中野区立歴史民俗資料館
中野区江古田4-3-4

⑥ 友達に教わったケーキ屋 L'AUTOMNEさんへ。ケーキ2個と紅茶のスタイルを注文したら、素敵にデコレートしてくれました。私は「ストロベリー・ティラミス」と「ぎり×2」をチョイス。



「ぎり×2」は、マロンムースとカシスクリームとチョコレートが絶品のタルトで、箱にギリギリ入るケーキの高さが名前の由来です。



ロートヌ photo @milleh.kojima

L'AUTOMNE 中野店
中野区江原町2-30-1
大江戸線 新江古田駅 A1出口を出て左手すぐ
http://www.lautomne.jp

テイクアウトした「和栗のモンブラン」も家族に大好評でした。

新青梅街道

江古田2丁目バス停で下車。

上高田バス停から「中41」バスに乗車。

西武新宿線

新井薬師前駅



③ 北野神社（カ石）
中野区新井4-14-3

カ石って何だろう？と、北野神社へ足を延ばしました。カ石とは昔、若者が力くらべに使った石だそうです。



薬師参道の道標



新井薬師（梅照院）
中野区新井5-3-5

薬師あいロードの石畳が終わる十字路で右折、次の十字路を過ぎた左側、新井薬師（梅照院）へ。眼病平癒のお守りを求めました。



『たき火』のうた発祥の地



上高田本通り

④ 上高田本通りを東へ。「『たき火』のうた発祥の地」の立札があり、垣根も残っていました。



新井薬師さんの眼病平癒のお守り

中野
ブロードウェイ

サンモール

START !

北口

JR中野駅

JR中央線

① 中野駅北口をAM10時にスタート。アーケード街「サンモール」を歩く。まだ開店準備中の店舗が多い。サンモールを抜けて、中野ブロードウェイのビルに入り、1階のストリートを南北に通り返抜ける。北口付近の左側に、美味しそうなお豆腐屋さんを発見。早稲田通りに出た。信号を渡って、右へ少し進むと、「薬師参道」の道標がある。薬師あいロードの入口だ。

早稲田通り



中央線を追いかける！



中央線は脇目もふらず中立路線をまっしぐら

文・写真：グランピー

地図上の中央線は矢のように一直線に走る。でも実際に走る姿は見上げるか見下ろすばかり。道路面ではなかなか会えない。中央線はどこで高架になったり、堀割になったりしているのだろうか？

一方、道路上から中央線を見ると、線路は複雑な動きをして、時に姿をくらましたり、意外なところから現れたりする。中央線はどこだ？ さあ、中野駅から立川駅まで中央線を追いかけてみよう。

立川

中野



⑥ 国分寺-立川間の橋からのスベクタクル



① 中野駅出発直後は路面を走る

中野駅直後の路面走行も束の間、環七道路手前でわずかのスロープの助走を付けて高架に上る。ところが阿佐ヶ谷駅から次の荻窪駅の間で高架の支柱が無くなり(③)、そこにはスリパチ状の地形が現れた。中央線が高架/堀割を走るのには、道路との直接交差による交通渋滞を回避するためだけでなく地形にも原因がある。また中央線との直接交差を避けて幹線道路が真下に潜る⑤や⑬では、道路本線を外れて脇道を直進すると、真横から電車の走行が見られる。



⑥ 環八を突き抜けた直後再び高架に替わるスポットもスリパチ状の地形がみられる



⑤ 環八本線の頭上では、一般道路と並んで走る



④ 青梅街道天沼陸橋の下から顔を出す



③ 荻窪駅手前。すぐに青梅街道の下を潜り抜ける



⑨ 右手は東経大キャンパス

三鷹駅で電車は地上に降りて来て、電車庫(⑧)を素通りすると、再びわずかな助走を付けて、長い高架線区域に入り、次に路面に顔を出すのは国分寺駅手前の東京経済大学脇の道になる(⑨)



⑧ 三鷹跨線橋上から



⑦ 吉祥寺-三鷹駅の途中で高架が消滅



国立駅手前まで眼下を走行していた電車がたちまち落差を縮めて路面から高架になるのも、付近の地形が左写真のようにスリパチ状になっているからだ。

⑬ 国立駅への近道。階段のある風景(左)



⑫ 国分寺陸橋からの眺め



⑪ 日立中央研究所沿いの下り坂



⑩ 国分寺駅西側の花沢橋

武蔵小金井駅までは高架路線を追いかけてやすかったが国分寺駅手前でしばらく一般道から逸れる。国分寺駅を過ぎてからは、道路から見下ろす堀割の中を走る区間が多く、周辺一帯の凸凹地形の様子もわかる。高架線路と堀割内の線路との高低差は見た目ではかなりあるのに、電車は意外に短い距離で落差を吸収して上ったり下ったりしている。中野駅-立川駅は山あり谷ありの地形を器用にこなして貫く一直線だったのだ。中央線敷設の魅力は、地図上の一筋縄では語れない。



⑮ 立川駅手前の立川立体



⑭ 立川駅手前で再び路面へ

東京マガジンバンクカレッジ 鉄道セクション連続ワークショップ

「中央線が好きだ。を書く」

ウェブマガジンができるまで

【ワークショップ】

第1回『中央線が好きだ。マガジン』の裏側

平成31年1月12日(土) 午後2時～午後4時

- ①ワークショップ全体の説明
- ②グループワーク(記事にしたいテーマの発表)
- ③講義『中央線が好きだ。マガジン』の裏側(講師:坂原茉莉子氏)
- ④個別作業(ラフの制作)

第2回「中央線が好きだ！」が伝わる記事の書き方、取材の仕方

平成31年1月26日(土) 午後2時～午後4時

- ①講義「取材のだんどり・方法」(講師:松井一恵氏)
- ②講義「撮影の方法」(講師:坂原茉莉子氏)
- ③講義「原稿の書き方」(講師:佐藤さゆり氏)
- ④グループワーク(ラフの発表)
- ⑤講義「記事の組み方・校正の方法」(講師:坂原茉莉子氏)

第3回 記事が完成!発表会

平成31年2月9日(土) 午後2時～午後4時

- ①個別作業(記事の仕上げ)
- ②作成した記事の発表
- ③ワークショップの総括
- ④感想発表・記念撮影

【ウェブマガジン編集作業】

平成31年2月10日～平成31年3月12日 編集・校正作業

平成31年3月20日 都立図書館ホームページにウェブマガジン掲載

東京マガジンバンクカレッジ 第5号

平成 31 年 3 月発行

編集 東京マガジンバンクカレッジ事務局

発行 東京都立多摩図書館

〒185-8520

東京都国分寺市泉町二丁目 2 番 26 号

電話 042-359-4020

ホームページ <https://www.library.metro.tokyo.jp/>

※本ウェブマガジンの情報は平成 31 年 2 月現在のものです。